

# 日本史の「空白期」解く鍵

の柵の特徴である堀や櫓、柵などの遺構が発見されており、遺構からは11世紀前半から中ごろの「陸奥話記」などの文獻と比較研究しながら、このことを踏まえ本遺跡は、11世紀中ごろに起こった前九年合戦の舞台となった鳥海柵であると考えられる。

日本史上空白とされ、11世紀だけでなく、日本の中世の始まりを、「陸奥話記」などの文獻と比較研究しながら明らかにできる史跡として重要であると評価を受け、昨年度指定史跡となった。

(つづ)

□安倍氏の台頭、始動期 11世紀前半の遺構が確認された場所は、一番北側の縦街道南区域。柳之御所遺跡の中心施設とほぼ同じ規模の建物跡が出ている。中心部分の身舎に、四つ方向に廂がある。さらに南側にはもう一棟建物跡が確認されている。

これらの遺物は、胆沢城最後の時期に続く年代と考えられ、11世紀前半の土器と考えている。このほかに水晶の玉、鉄製品が出土。鉄製品は鉸貝といって当時の官人（役人）が身に付けていた束帯の金具で、現代であればベルトのバックル部分に当たる。

11世紀前半は、大型の建物跡を中心に、遺跡のほぼ全域が使用されている。

た。沢などの自然地形を利用して小規模な溝は存在するが、大規模な防衛施設である人工の堀などはなかったとみられる。役人が身に付ける鉸貝や胆沢城でも見られる水晶の玉が出土していることから、安倍氏が胆沢城の権力を背景に台頭してきた鳥海柵の始動期と想定される。

酒を入れたもの。小皿には食べ物を入れていたとみられる。

鳥海区域で確認された堀は、深さが3・2メートルありあった。また、堀の両側に土盛りが確認されている。

一番南側の二ノ宮後区域からは、二つの時期の遺構を確認。四角く掘られたものが竪穴建物で、11世紀前半の遺構と考えられる。

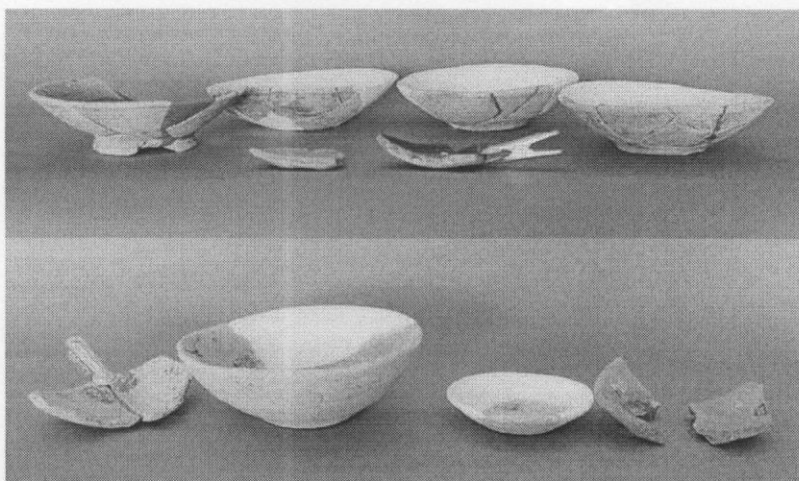
□11世紀中期の建物跡 11世紀中ごろは、原添下区域の南東部が中心的な区域だったと考えられる。堀で囲んだ中に、四つ方向に廂が付く四面廂付建物がある。この建物跡を中心に、竪穴建物などが計画的に配置された空間がこの場所にあったと考えられる。

土器についてもそれぞれ違いがある。11世紀前半は内黒土師器や高台の坏が伴うのに対し、11世紀中ごろは坏と小皿だけになる。

鳥海柵は「陸奥話記」にある厨川柵と似たような立地になっている。11世紀中ごろには、大規模な堀を造成した区画に櫓や柵を設け、軍事的な性格を強めた館になったと考えられる。

□「断定」背景と価値 「陸奥話記」によれば、11世紀中ごろは安倍氏が勢力を拡大する時期。あ

るいは前九年合戦の時期とみられる。本遺跡からは、「陸奥話記」にみられる安倍氏



竪穴建物跡（11世紀前半）の土師器（上）と掘って立て柱建物跡（11世紀中ごろ）の土師器（下）

出てきた土器は、土師器の坏（椀型のもの）と小皿の2種類。土器の使用方は、前九年合戦絵詞を参考にすると、坏は

## 金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵を知る

— 町民大学2013 シンポジウムより —

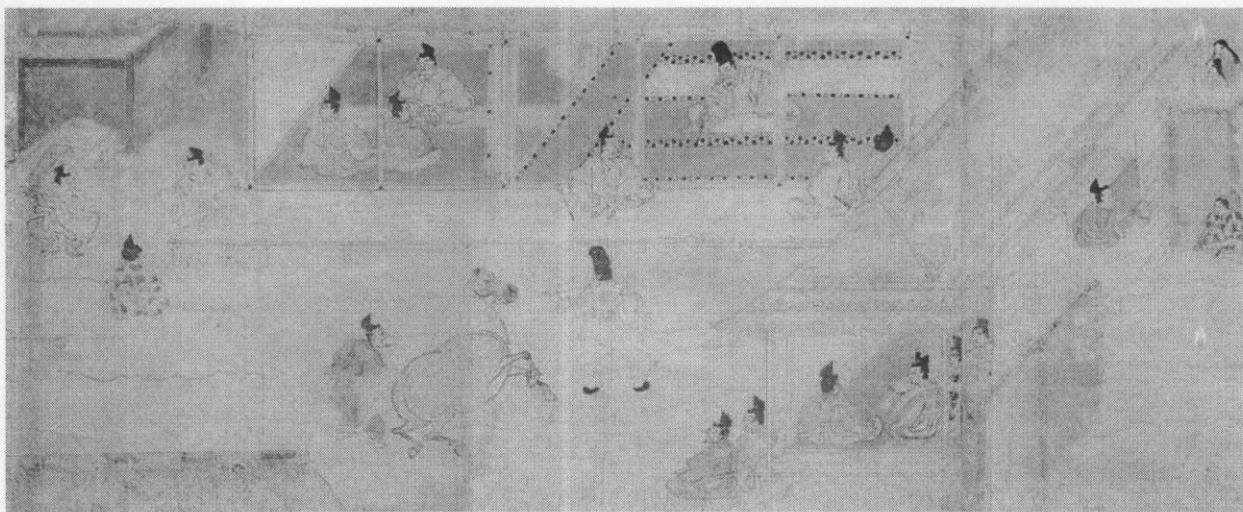
2

浅利 英克氏（町中央生涯教育センター文化係長）

### 鳥海柵跡の概要 ①



縦街道南区域で発見された大型建物跡



11世紀当時の大型建物のイメージ（「前九年合戦絵詞」より）